

# 「天然痘」「コレラ」と闘った 近代医学の祖、偉人たちの師

自分のためではなく人のために生きるのが医者  
自分の楽しみ、名誉、利益を顧みず、ただ人を救うことを希むべし

緒方洪庵訳『扶氏医戒之略』より



緒方洪庵の父は、足守藩士で藩財政のため大坂で奔走していました。父に同行した洪庵は、大坂の地で洋学にふれ、医者・蘭学者・教育者への道を歩みます。

- ・西洋医学書を翻訳し知識普及
- ・医者として実際に人々を救済
- ・適塾における多くの人材育成

これらの業績を挙げた洪庵は、幕府に召し出され、医業に務める中で亡くなります。

当時大流行した感染症「天然痘」や「コレラ」に立ち向かうとともに、幕末維新の日本を担った人材を数多く育てた緒方洪庵。まさに「人のために生きた」一生でした。

緒方洪庵

(1810年～1863年)

もっと知ろう！ 緒方洪庵

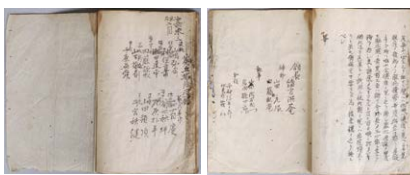
## 1 「適塾」出身者が近代日本をつくる



適塾内観/適塾記念センター提供

洪庵が医師開業と同時に開いた適塾は、蘭学等の知識を実践する人材を輩出。福沢諭吉、大村益次郎、佐野常民など幕末から明治の偉人が多く学びました。

## 2 足守でワクチン接種



読所馬牛痘説 嘉永3(1850)年2月号/岡山県立博物館所蔵

嘉永3(1850)年、藩主の命を受けた洪庵は、足守に帰り種痘(天然痘予防のワクチン接種)を県内で初めて行いました。周辺地域に出向いて種痘も行い、金川の難波抱節ら医師に方法を伝授して普及に努めたといわれています。

## 3 妻・八重との二人三脚



緒方八重、緒方洪庵肖像画/適塾記念センター提供

洪庵が大坂で医者を開業すると、あっという間に評判が広がり、適塾の塾生も増えたといえます。17歳で洪庵と結婚した八重は、塾生を見守り母として慕われたといえます。また洪庵の研究を助け、常に寄り添う最大の理解者でもありました。